

あの頃の歌

Em Bm Am G Em Bm Am G

^{Em}古びた街の片隅 ^D木製ガラス引き戸が

^C暗く閉め切ったまの ^G駄菓子屋が ^{B7}見える

^{Em}十円玉握り締め ^D通った店 ^{Em}思い出す ^D

^C店の中にこもった ^G関東炊きの ^{B7}香り ^{D7}

^{Em}誰もいない ^C土の道 ^D ^G

^G歌った歌 ^{Am}思い出す ^D ^{Em}

いつも夏の高原。訪れるたびに思い出す

色を忘れた裏山 探検したこと

竹竿付け足した 長いあみをひそめて

鳴り終わるまでのセミを 下から見上げていた

誰もいない土の道

砂だらけの膝小僧